

海洋深層水サミット2024 室戸大会パネルセッション開催報告

利用促進委員会

当委員会が掲げる「再発見！海洋深層水利活用」を大テーマに3ヵ年計画でスタートした企画は、昨年の佐渡大会を経て、今年は「海洋深層水サミット2024室戸大会パネルセッション」の名称を冠に、「再発見！今、改めて考える海洋深層水利活用への現状」と題して、海洋深層水利用学会室戸大会の2日目となる2024年10月18日（金）13:30から、室戸市保健福祉センターやすらぎに60名を超える参加者に加えて、テレビ、ラジオ、新聞関係の12社の全国各地マスメディアが参集して、2時間に渡って開催されました（対面と遠隔のハイブリッド方式、高知県、室戸市、当学会利用促進委員会の三者共催）。

まず、海洋深層水産業利用全国自治体協議会から、高知県、静岡県、富山県、沖縄県が登壇して海洋深層水利活用に関する最新の取組みをプレゼンテーションする形でキックオフされました。これを受けて4つのテーマを柱に、パネルディスカッションが始まりました。最初のテーマは、「身近にある海洋深層水」です。普段の生活で何気なく口にかけている有名な飲料やお風呂場で使うシャンプー、リンスに広く海洋深層水が使われていることに加え、食卓や飲食店で美味しく食べるカキや海藻類等の海産物の養殖、蓄養をはじめ、活魚の鮮度維持を目的とした海洋深層水による輸送が既に現実化している等、海洋深層水が私たちの社会生活に実装されていることが周知されました。2番目のテーマは、「海洋深層水のユニーク(!?)な研究」です。水族館の展示で人気が高い「タカアシガニ」の健康状態の維持に海洋深層水が役立つというものです。エビ、カニ類は、脱皮行動が生育と健康状態の維持に欠かせないそうです。水族館の展示環境下では緩

慢になる脱皮行動が、海洋深層水によって活発化するという世界的にも知られていない現象が紹介されました。高知県では海洋深層水を用いて「サツキマス(アマゴの降海型銀化魚)」の養殖が盛んです。このサツキマスのにぎり寿司が、今年の「にっぽんの宝物世界大会2024」で特別賞に輝いたのです。海洋深層水の利活用は、世界的な注目を集め始めていることを知りました。3番目のテーマは、「エネルギー分野で高まる存在感」についてです。冷熱エネルギーの利活用は海洋深層水の真骨頂です。各プレゼンターとゲストコメントの高橋先生(日本科学協会会長)から、温度差発電や空調利用による経済的効果等、現実感あふれる情熱的なディスカッションが展開され、本パネルセッションの意義が啓発される形になりました。そして最後のテーマは、本サミットのホスト自治体である高知県から「未来への提言」として、「各自治体間の協力体制と研究における相互連携」が提唱されました。なおこの提言は、全国の海洋深層水利用に対して、当に未来の扉を開く鍵となる余韻を残して盛会の内に本セッションの幕が降りました。

今年の催しの参加者の皆さま、登壇頂いた自治体の皆さま、そして開催地の高知県と室戸市の皆さまに厚くお礼申し上げます。



Dowas News 2024 Vol.27 No.2

海洋深層水サミット2024 室戸大会パネルセッション開催報告

利用促進委員会委員長 山田勝久 ((株) ディーエイチシー)

海洋深層水利用学会